

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(14)

サンクチュアリ教会およびUCI（いわゆる「郭グループ」）の言説の誤りを指摘してきましたが、今回は、UCI側を支持する人々が広めている金鍾奭著「統一教会の分裂」に書かれている文顯進様を「追放した」という虚偽のストーリーについて触れ、その虚偽性を指摘していきます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言や『原理講論』および教理研究院が発表した内容は「青い字」で、UCI（いわゆる「郭グループ」）側の主張は「茶色の字」で区別しています。

十八、真のお母様が「顯進様を追放した」という虚偽の主張

『統一教会の分裂』239ページには、「韓鶴子と文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放した」と書かれており、UCI側が述べる「追放劇」とも呼ぶべき虚偽のストーリーが記述されています。以下、『統一教会の分裂』を引用します。

「創始者の指示に従って遂行した文顯進のGPF活動の成功が、却って文顯進反対勢力を刺

激し結集させる触媒剤になった

という事実と、GPF活動の絶頂期に文顯進が完全に追放されたという事実は、統一教会の分裂と悲劇の本質が何なのかを現わしている。文顯進反対勢力が文顯進を追い出す為に展開するドラマのような過程において特に注目すべき事件は……『東草霊界メッセージ事件』である（107ページ）

『統一教会の分裂』の述べる「東草霊界メッセージ事件」と

れたのです。

『統一教会の分裂』は、UCI側が「東草霊界メッセージ捏造事件」と呼んでいる出来事を、次のように述べています。

「創始者は『霊界の実相を背景に人事措置と、革命的提案をしなければならぬ』とし、『文孝進霊界書信』と『訓母様霊界報告書』を読むように催促した。金孝南訓母の代わりに司会を務めていた梁昌植が、韓鶴子から報告書を伝達されて読んだ」（149ページ）

「特に東草霊界メッセージ事件の場合、創始者を完璧に欺く為に……文顯進除去の巧妙な道具として利用したというのが正に、東草霊界メッセージ捏造事件であった」（152ページ）

そもそも、このとき、真のお父様を中心に東草での「集会」が開かれたのは、米国にいた顯進様側がお父様のご意向に反して「米国教会理事会」構成員の

は、二〇〇九年三月八日、韓国・東草市の「天情苑」での訓誡会で起こった出来事を指します。『統一教会の分裂』は、その頃は「GPF活動の絶頂期」であったと述べていますが、当時、真のお父様はGPF活動にに対し強く懸念しておられました。

「先生が生きているのに、『先生の話聞くべきか、聞くべきでないか?』と、そうしています。『UPFではない。GPFだ!』と(彼らは)言いますが、『GPFでもなく、GPAでなければならぬ』という先生の名言を理解しません」(マルスム選集609-47)

「朴ジョンへ、ラスベガスでUPFとGPFの中で、どこに責任があるのか尋ねたとき、私が叱ったでしょう? 叱られたのを覚えてるの? 組織が二つですか? 二つがどこにあるのですか? 朴ジョンへ! 叱られたのを覚えているの、覚え

変更を強行しようとしたという

大事件があったためです(米国教会理事会乗っ取り未遂事件)。この重大事実に触れずして、東草で読み上げられた報告書に問題があるかのごとく主張するのは、論点のすり替えにほかなりません。また、報告書にまつわる彼らの上記主張自体も、以下に見るとおり偽りに満ちたものとなっています。

上記の彼らの主張には、大きく見て三つの誤りがあります。一つ目は「訓母様霊界報告書」という言葉、二つ目は「梁昌植が、韓鶴子から報告書を伝達されて読んだ」という説明、三つ目は「東草霊界メッセージ捏造事件」という表現です。

まず、「訓母様霊界報告書」というのは誤りであり、正しくは「訓母様の報告書」としてマルスム選集609巻123ページに記録されているものです。この「訓母様の報告書」は、誰がどのようにして作成したもの

ていないの? 金炳和! 叱つたことを理解できたの、理解できなかったの? 答えてみない! 誰の責任だと尋ねることが出来ますか? 先生の責任であるべきです!」(同609-121-122)

「GPFとUPFを先生が右手と左手に持っているのに、誰に責任があると言うのですか」(同609-131)

これらのみ言を要約すると、二〇〇九年当時、北米大陸会長だった金炳和氏に対し、真のお父様は「組織が二つですか? 二つがどこにあるのですか? ……誰の責任だと尋ねることが出来ますか? 先生の責任であるべきです」「GPFとUPFを先生が右手と左手に持っている」と語られ、UPFとGPFの組織は一つであるべきにもかかわらず、二つになっている、責任は先生が持つべきであると忠告しておられます。

か、その事実と背景について知らなければなりません。

二〇〇一年当時、北米大陸会長だった梁昌植氏が、同年十一月二十日に「二〇〇九年三月八日、東草報告書」と題する文章を書いています。梁氏が書いたその「報告書」(日本語訳)の資料の一部を以下、引用します。

「二〇〇五年に真の父母様の命令によって南北米総責任者として任命を受けた文顯進様の指導下にあった米国において、二〇〇八年七月二十九日に文仁進様(イシゲシ)が米国教会の協会長に任命となり、二者間の役割と権限に関する混沌があり、これを当時、北米大陸会長の金炳和会長が緊急事案として、当時、韓国協会長だった本人(注、梁会長)に、『お父様に直接問い合わせ、正確な答えを要請』してきました。東草集会の数日前に、主要幹部が真の父母様を迎えて(ソウル) マリオットホテルの食堂



で昼食時に集まった席で、本人(注、梁会長)がお父様に米国側の質問を直接報告し、お父様から(質問に対する)明らかな答えを受けてメモしたものを整理した内容(が「訓母様の報告書」です)(12~13ページ)

「二、三日後に父母様が……マリオットホテルの昼食時で明らかにされた内容を再整理しなさいとの命令を本人(注、梁会長)が受けて、直ちにメモしたノートを報告書形式として作成して差し上げ……この内容をお父様が直接確認、訓読されて、翌朝(三月八日)の公開席上で発表するように命じられました」(13ページ)

「(東草で)三月八日朝……敬拝後、お父様は直ちに訓母様に、訓母様が手に持っておられた黄色い『封筒を梁昌植会長に渡して読むように』と命令されました。当時、一番前の席の右側に座っていた本人(注、梁会長)は、訓母様から渡された封筒を

的に書き加えています。さらに、梁氏がまとめた「報告書」であるにもかかわらず、「霊界メッセージ捏造」であると意図的に創作しています。この二つの文書は、真のお父様が「承認」しておられた内容です。特に、梁氏が書いてまとめた「報告書」とは、お父様が梁氏に語った内容を梁氏がまとめ、それをお父様ご自身が再度チェックしておられた文書であり、誰かがかかって「捏造」した文書ではありません。それは、お父様が梁氏に代筆させた「指示事項」であり、お父様のみ言です。これは「霊界メッセージ」でもなければ、「捏造」された文書でもありません。

ところが、『統一教会の分裂』は「梁昌植が、韓鶴子から報告書を伝達されて読んだ」と、虚偽の説明をしています。梁氏は、「訓母様が手に持っておられた黄色い『封筒を梁昌植会長に渡して読むように』と真のお父

開いて訓読を始めました。初めのページには孝進様のメッセージがあり……同じ封筒の中に真の子女様たちの使命に対するお父様の指示事項(のメモを私がまとめた「報告書」)、この整理された内容がありました。……本人(注、梁会長)が父母様の命令によって三月六日頃に作成して報告差上げた内容そのままでした。孝進様のメッセージは……霊界メッセージとしなければならぬでしょう。……(しかし)二番目の内容は霊界で作成したものでなく、当時、協会長として公的な命令を受けて本人(注、梁会長)が作成して父母様に差し上げた『報告書』の内容です。したがって、この内容は霊界とは全く関連がないことを(ここに)あきらかにするものです」(16ページ)

以上の報告書の内容をまとめると、真のお父様が梁氏に「読みなさい」と命じられた訓母様が

様がお命じになったため、それを読んだのです。また、『統一教会の分裂』151ページには、「金孝南(注、訓母様)は内幕を尋ねる文顯進に対し、自分は文孝進の霊界書信とは無関係」と述べています。しかし、東草事件の前日の二〇〇九年三月七日、訓母様は真のお父様に「お父様、私が昨日、孝進様から手紙を一つ簡単に受け取りましたが、読んで差し上げましょうか？」と尋ね、お父様は「そうだ！ そういうものを皆、(地上と)連結しなければならぬ。……明日の朝に私がそこで訓読会に参加するので、準備しなさい」と語られ、指示しておられたのです。ゆえに、

「金孝南は……文孝進の霊界書信とは無関係」であると主張するのも誤りです。結局、「文顯進除去の巧妙な道具として利用したというのが正に、東草霊界メッセージ捏造事件であった」という『統一教

が手に持っていた黄色い「封筒」の中に、二つの報告書が入っていたのです。一つは「孝進様が霊界から送られた書信」と、もう一つは梁氏が作成した「報告書」(訓母様の報告書)です。その封筒を、梁氏は訓母様から受け取って代読しました。

「孝進様が霊界から送られた書信」は、その前日の三月七日の訓読会で、訓母様が「私が昨日、孝進様から手紙を一つ簡単に受け取りましたが、読んで差し上げましょうか？」と真のお父様に尋ね、お父様が「そうだ！ そういうものを皆、(地上と)連結しなければならぬ」(マルスム選集609-81)と語られて、訓母様がその場で奉読しておられたものです。その孝進様の手紙(孝進様が霊界から送られた書信)と、梁氏がまとめた「訓母様の報告書」とが同じ封筒の中に入れられていたのです。

事件の当日、真のお父様は会の分裂の説明は、虚偽の主張にほかなりません。したがって、二〇〇九年三月八日の「東草霊界メッセージ捏造事件」が「韓鶴子と文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放」した事件であるとの主張も、虚偽の主張です。これらの記述は、顯進様を「犠牲者」として描くことで、その「逆行行為」を正当化するために書かれたものと言わざるをえません。金鍾奭著『統一教会の分裂』は、真のお母様ばかりでなく結果として真のお父様もおおとしまえています。事実を歪曲した、歴史的審判を受ける内容の書籍なのです。

(3) 天一国最高委員会は「法統」だと主張する誤り

『統一教会の分裂』は、天一国最高委員会を「法統」であるとして、誤った主張をします。「韓鶴子は血統信仰に基づいた後継者選択を放棄した為、い

「決定は皆が集まった場で、霊界の実相報告を、訓母様を通して聞いて、なすのです。霊界に先生の息子が行って総司令官です。……(孝進が)地上で知らずに暮らした者たちを悔い改めさせて、こうして報告した内容が皆あります。それを読んであげなければなりません」(マルスム選集609-1111~1112)と語られ、梁氏が「封筒」を受け取ると、お父様は「ただそのとおりに読んであげなさいというのです。……霊界に相談して祈祷し、訓母様が受けたもののように報告しなさいというのです」(マルスム選集609-1115)と促され、梁氏は「封筒」に入った二つの内容を訓読したのでした。

『統一教会の分裂』は「訓母様霊界報告書」と書いていますが、マルスム選集にあるように、それは梁氏がまとめた「訓母様の報告書」であるにもかかわらず、「霊界」という文字を意図的に

わゆる「法統」という新しいアイデンティティをもって合理化しなければならぬ」(239ページ)「真の家庭が意図的に排除された天一国最高委員会……」(274ページ)

この主張は、全て誤った主張にほかなりません。

①真のご家庭を中心とした天一国最高委員会

UCI側は、天一国最高委員会が「真の父母様の直系子女ではなく、能力のある人」が継承し、「法を中心」とした後継構図を描いていると述べ、「真の家庭が意図的に排除された天一国最高委員会」であると批判します。

しかし、『天一国憲法(教会法)』の第三章「天一国最高委員会」には、次のように書かれています。

「第28条(最高議決機関) 天一国は、最高議決機関として天

一国最高委員会を置く。
第29条(構成) 1. 天一国最高委員会は、13名で構成される。
第30条(委員長・副委員長) 1. 委員長は、真の父母様の家庭の中から真の父母様が任命し、天政苑の世界会長職を兼ねる事が出来る」

二〇一四年五月十二日、真の父母様が主催された第一回「天一国最高委員会会議」が天正宮博物館の三階訓読室で開催されました。真のお母様は、天一国最高委員会の委員長に真の父母様の直系子女の善進様を任命され、今日まで善進様が委員長を務めておられます。

ゆえに、天一国最高委員会は「真の家庭が意図的に排除」された組織である、というUCI側の主張は事実には反します。天一国最高委員会は、真のご家庭を中心とした最高議決機関なのです。

み言の説明部分で述べたように、以上のUCI側の批判は、お父様の「長子」のみ言に対する無理解、無知に基づくものにすぎません。

天一国最高委員会とは「真の父母様の直系子女様」による継承であり、直系子女様を除外し、能力のある人が継承する「法統」ではありません。真のお母様が「顯進様を追放」する目的のために「天一国最高委員会」を立てられたというのは、虚偽の説明にほかなりません。

真のお父様は、一九八五年八月十六日の「一勝日」のみ言で、後継の問題について次のように述べておられます。

「これから、先生以後に、孝進の後孫たちがそうするとき、代々に亘って受け継いでいくのです。誰が継代を受け継ぐかという問題ですが、もちろん、長男が受け継ぐのが原則です。しかし、長男がすべてにおいて不足のため、伝統を受け継ぐこと

②真の父母様のみ言の具現化が天一国最高委員会

また、UCI側は、天一国最高委員会は「真の子女様を除いて、法を中心として、最高委員会」であると主張し、批判します。しかし、真のお父様は、二〇〇九年三月十日の訓読会で、次のように語っておられます。

「五権分立として新しい世を造る憲法の条項を全て作っています。……二〇一三年一月十三日が過ぎれば、その法のとおり生きなければなりません。たくさん話をしましたが、法のとおりに生きられない人は離れてしまいます」(マルスム選集609-186-187)

『天一国憲法(教会法) 解説 法源編』(韓国版)の第一部総論には、次のように書かれています。

「三権分立ではなく言論界と銀行界を含めた五権分立(07・7・11)、今後、立法部・司法部・行政部と銀行・言論界(05・7・

20) (89ページ)

「天一国最高委員会は天一国の最高議決機関であり(28条)、天政苑は天一国の行政権(37条)、天議苑は天一国の立法権(47条)、天法苑は天一国の司法権(59条)、天財苑は天一国の財政権(64条)、天公苑は民意収斂・報道・広報に関する権限(69条)を持つ」(93ページ)

『天一国憲法(教会法)』は真の父母様のみ言に従って、天一国を実体的に定着・完成させる普遍的であり実質的な生活体制と国家の教会体制、そして世界の教会体制を備えるために制定」(4ページ)され、「真のお父様の聖和1周年を迎え、真のお母様は『天一国憲法』を奉告至」(3ページ)されました。

以上のことから、天一国最高委員会に対する、「真の子女様を除いて、法を中心として、最高委員会」というUCI側の批判は誤りです。天一国最高委員会とは、前項で述べた「天一国

集めた公的会議の場で話し合わなければなりません」と語っておられます。

そして、真のお父様は二〇〇九年三月十日の訓読会で、「二〇一三年一月十三日が過ぎれば、その法のとおりに生きなければなりません。……法のとおりに生きられない人は離れてしまいます」と語られました。

顯進様は、二〇〇九年三月八日の事件の後、真の父母様のもとを離れてしまいました。さらに、二〇一三年天曆一月十三日の「天一国基元節」以降、家庭連合と決別宣言をしました。そして、二〇一七年十二月二日にはFPA(家庭平和協会)という真の父母様と全く無縁の組織まで立ち上げ、分派活動をさらに強めています。

真のお父様が「二〇一三年一月十三日が過ぎれば、……法のとおりに生きられない人は離れてしまいます」と述べられたように、顯進様は、真の父母様の

憲法(教会法)第三章第30条にあるように「真の父母様を中心とした真のご家庭が中心の最高議決機関」であり、「天一国憲法」を中心とした最高議決機関です。これらは、真の父母様のみ言に基づいてなされていることなのです。

③真の父母様の直系子女による「継承」のための天一国最高委員会

UCI側は、天一国最高委員会とは「真の父母様の直系子女ではなく、能力のある人が継承」する「法統継承」であると批判し、真のお母様は「法統継承」のために長子を追放したとまで主張します。それは「顯進様を追い出す」ためであり、「摂理的長子を潰す」ためだったと述べています。そして、「韓鶴子は血統信仰に基づいた後継者選択を放棄した」というのです。すでに前回の記事において、「長子」に対する真のお父様の

もことから完全に離れてしまったのです。お父様が、「兄弟たちを集めた公的会議の場で話し合わなければなりません」と語っておられるにもかかわらず、現在の顯進様は、真のお母様や他の真の子女様たちとの話し合いすらできない状況です。しかしながら、真の父母様は、顯進様が一日も早く、本来の位置と状態に戻ってこられることを切に願っておられます。

結論を述べると、『統一教会の分裂』が述べる、真のお母様が「法統継承」のために長子を追放したというのは虚偽の説明であり、顯進様が真のお父様のみ言に従わずに、真の父母様のもとから離れてしまったというのが真相なのです。

金鍾奭著『統一教会の分裂』が述べる「追放劇」は、虚偽のストーリーです。私たちは、このような非原理的な主張に惑わされてはなりません。